

2024.12

残部 2 セット

拍子木の音が鳴っている。さあ始まりだ！ 昭和の人々の心と時代を実感しよう！

懐かしの紙芝居

なつ

かみしばい

子ども文化

永遠の郷愁遺産

カラー完全複製〈実物大〉
+手書き口上の臨場感！

いま、だれでも、当時のように実演する
道具が揃っています。

残部 2 セット

★ご注文お急ぎください！

特別価格 24,000 円 + 税
(6点セット) 分売不可

・送料サービス

販売

学術資料出版

大空社出版

おおぞらしゃしゅっぱん

www.ozorasha.co.jp

TEL:042-306-3383

FAX:042-306-3384

東京都東村山市秋津町 5-24-13-101 (〒189-0001)

eigy@ozorasha.co.jp

懐かしの紙芝居



① 黄金バット ナゾー編
10 枚セット



② ジャングルボーイ
10 枚セット



③ 平和への祈り
11 枚セット



④ 丹下左膳
10 枚セット



⑤ キンちゃんコロちゃん
9 枚セット



〈特別編〉
⑥ 元祖 黄金バット
18 枚セット

*本商品は 大空社 により 1995 年に製作・発行されたものです。

① 黄金バット ナゾー編

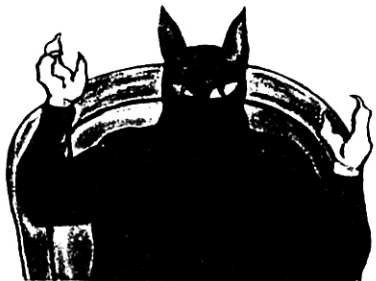
筋書と台本 *手書きのセリフを活字にしました。

(表紙) 紙芝居黄金バットは、一九三〇(昭和五)年の秋、鈴木一郎の台本、永松健夫の絵で、東京下町の紙芝居製作所、話の日本社で作られました。永松が黄金バットの絵を描かなくなった昭和七年から加太こうじ、菊地広雲その他が黄金バットの絵を描きました。太平洋戦争が終ったあとの昭和二十一年一月から加太こうじが黄金バットの台本を作り絵を描きました。

その後、出版物として黄金バットを永松が書き、別に加太も書きました。それでは紙芝居黄金バットの一部分をご紹介します。連続冒険空想科学黄金バットであります。



② ナチスドイツの科学者ナゾーは、ベルリンが没落した一九四五年四月の末にスイスにのがれて、負傷した姿を黒布でつつんでアルプス山中の基地にかくれて、再起する日を待っていました。そして、かつての同僚だった日本の藤原博士が持つ破壊光線をうばって、もう一度世界を征服する戦争をしようとした。ナゾーは巨大な鋼鉄製の空とぶロボット、怪タンクを使って、藤原博士の娘マサエを、人質として、アルプス山中の基地へつれてきたのであります。



③ 「マサエ、破壊光線の秘密はどこにあるのか、教えなさい。教えなければ、お前を死刑にする」 ナゾーにそういわれたとき、マサエは、

④ 「平和のために使えば、人類のしあわせに役立つあの光線も、ナゾーにわたせば、おそろしい世界征服のための、大量殺人の武器になります。マサエは教えません。それにしても黄金バットの小父さんは……」
このときであります。



⑤ 突如としてあらわれた正義の味方黄金バット。「ウハハハハハ」アルプスの山やまにとどろく黄金バットの笑い声。



*実際の絵は「すべてカラー」です。



⑥ 黄金バットは宙をとんで、マサエを助けにナゾーの基地へ。

⑦ ゆく手ににたちふさがる怪タンク。「ゴングゴングゴング ラファイ」 「おのれ怪タンクきたか、木っばみじん打ちくだいてくれるぞ、ウハハハハハハ」 黄金バットは怪タンクに体当たり。



⑧ パバイン。怪タンクは不死身の黄金バットによって、もろくも鉄屑となつて、くだけ散りました。バットはナゾーの基地のなかへ。



〈懐かしの紙芝居〉

① 黄金バット ナゾー編

作・画 加太こうじ

10枚セット

寸法 25.5 × 35 cm

付・筋書と台本



⑨ 「ナゾー、黄金バットがマサエさんをいただきにきたぞ。いでや、黄金丸の斬れ味、とくと見るがよい」



⑩ 黄金バットはマサエをかばって、ナゾーの前に立ちました。バット勝つか、ナゾー勝つか、破壊光線の秘密はだれのものになるのでありましょうか。黄金バットナゾー編、また、明日のおたのしみであります。(二応の終わり)

*「懐かしの紙芝居」外装について 本商品は1995年に製作・発行され(大空社)、年数が経過し外装ケースに一部変色等が見られますが内容品は良品です。できる限り状態の良いものを出荷しますので、ご了承のほどお願い申し上げます。販売元・大空社出版



2 ジャングルボーイ

筋書と台本 *手書きのセリフを活字にしました。



(表紙) 広大なジャングルを舞台に繰り広げられる少年と動物たちのわくわくする物語。



② 爆弾坊やとポコちゃんはオモチャを出して遊んでいた。



③ 木馬に乗ったポコちゃん。「ハイドウドウ。アア動くぞ動くぞ、お馬が動くぞ」後ろでは機関銃を持った爆弾坊や。「手を上げる。打つぞ」バリバリ。そのうちにオモチャに飽きた二人は、

④ 扉の間から首を出し甲板をのぞくと、「坊や、誰もいないよ。これから外に出て面白いことして遊ぼうよ」
「面白いことってなあに」
「冒険」っこをして遊ぼう」
「僕、冒険大好きや」



⑤ 爆弾坊やの手を引いて甲板に出てきた小猿ポコちゃん。この時、前方から外人の子供が四、五名、話ながら近づいたが、



⑥ ポコちゃんを見ると珍しそうに立ち止まり、「おい。見ろこの猿、生意気に人間と遊んでいるぜ」「なるほど。大きな耳の猿だな、何猿だろう。少し相手になつてやれ」
「何をっ。僕の強いのを知らない。ジャングルボーイの一人の子分ジャングルポコちゃんの強いところを見せてやるぞ」

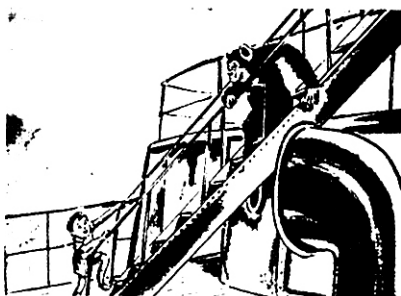


*実際の絵は「すべてカラー」です。

⑦ 怒ったポコちゃん、一番大きなノッポの体に飛び付くとバリバリとかきむしった。不意を打たれたノッポの子。「ウァーッこの猿、気遣い猿や。助けてくれっ」
大きな声に驚いて他の子供たちはバタバタ逃げだした。爆弾坊やは大喜び。
「強いぞ、ポコちゃん。しっかりおやりよ」



⑧ 「面白かったね坊や。サア早く上がっておいでよ」
「ポコちゃん、待ってよ。僕オシッコが出ちゃうよ」
「オシッコなんかどこでもしたらええ。早く上がっておいで」
「それでもパンツぬれたらカアちゃんに叱られるもの」
「お母ちゃん怒ったら僕が怒つたる早よおいで」



〈懐かしの紙芝居〉

2 ジャングルボーイ

第24巻

作 東健児
画 野田新太郎

10枚セット
寸法 25.5 × 35 cm
付・筋書と台本

⑨ 中ほどまで上がった坊や。「あつ、出てしまった。ズボン、チクチクや。お母ちゃんに叱られるよ」
坊やは急いで上に登ろうとしたので、



⑩ 「あっ」
高い階段の上からツルリと足がすべって落ちそうになる。ああ、小さい爆弾坊や、高い階段から落ちればどうなるのでしょうか。



* 「懐かしの紙芝居」外装について 本商品は1995年に製作・発行され(大空社)、年数が経過し外装ケースに一部変色等が見られますが内容品は良品です。できる限り状態の良いものを出荷しますので、ご了承のほどお願い申し上げます。 販売元・大空社出版

③ 平和への祈り

筋書と台本 *手書きのセリフを活字にしました。

(表紙) 広島に投下された人類初の原子爆弾。紙芝居に表された庶民の平和への大いなる願い。



② 光子はその場に立ちすくんでしまった。眼の前の道路や倒れた家の間には焼けただれた人々が見るも無惨な姿で死んでいた。



③ あたりはしーんと静まり返って物音一つしない。焼け跡のあちこちにはまだ不気味な黒煙がもくもくと上がっていた。

「お父さん」
光子は悲しく心細く父の名を呼んだ。その時、「光子さん、助けて」と言う女の人の声に、



④ 光子が振り返って見れば近所に住んでいる光子の学校の受持ちの先生だった。「あつ、先生」「先生、だいじょうぶ」



⑤ 利口な光子は手ごろな丸太を見つけそれをてこにして重い柱を持ち上げた。そして先生はやっとその下からはい出すことができた。「光子さん、ありがとう」



⑥ 「光子さん、よく無事で」「先生、私も家の下敷きになっていたのよ」二人は思わず手を取り合せて泣いた。先生の両手は焼けただれて血まみれになり肉がぶら下がっていた。その時先生が……



*実際の絵は「すべてカラー」です。

⑦ 「あつ、お母さん」突然先生はそう叫ぶと一人の死骸にかけよった。路上に倒れて死んでいるのは先生のたった一人のお母さんだった。



⑧ 「お母さん」先生はお母さんの体に抱きついて声をあげて泣いた。光子も父を思いだして共に涙にくれるのだった。



⑨ やがて二人は死骸のごろごろ転がっている間を通って本道にでた。光子は自分のお父さんも先生のお母さんのように死んでいたらどうしようかと思うとまた新しい涙が流れてくるのだった。



⑩ 「あつ、先生。どうしたの」いっしょに歩いていたら先生が突然のめるようになって、倒れたのだ。光子は驚いて、「先生、しっかりして」と言いながら、



⑪ 抱き起こした。だが先生はもう何も言ってはくれないかった。その鼻からも口からも真っ赤な血がふきだしていた。「先生、死んじゃいやよ、先生」光子は泣きながら先生の体を揺さぶった。母のいない光子は母とも姉とも思っていたやさしい先生だった。果たして哀れな光子は、



〈懐かしの紙芝居〉

③ 平和への祈り 第2巻

作 町屋住男
画 Nきいち

11枚セット
寸法 25.5 × 35 cm
付・筋書と台本

*「懐かしの紙芝居」外装について 本商品は1995年に製作・発行され(大空社)、年数が経過し外装ケースに一部変色等が見られますが内容品は良品です。できる限り状態の良いものを出荷しますので、ご了承のほどお願い申し上げます。 販売元・大空社出版

4 丹下左膳

筋書と台本

*手書きのセリフを活字にしました。

(表紙) 江戸千代田城、八代將軍吉宗の頃。

日光東照宮二十年ごとの改修工事が行われようとしていた。

御作奉行をどの大名にするかで金魚籠をひくことになり、伊賀柳生家に決定した。

柳生対馬守は困惑し、百二十一歳の怪老人一風宗匠に相談することにした。

老人が言うことには、百万両入ったこけ猿の壺が江戸屋敷にある。

その話を盗み聞いた丹下左膳はこけ猿の壺をねらって江戸へ向かう。

柳生源三郎も江戸へ向かう。



②丹下左膳が崖から落ちると間もなく源三郎は兄対馬守に事を知らせた。

「お家の一大事。一時も猶予はならん。直ちに江戸へ参りこけ猿の壺を持って参れ」と対馬守は源三郎に命じた。

*実際の絵は「すべてカラー」です。



⑤濡れた着物を左膳が乾かしている街道筋。

「おや。行列かな。一体誰かな」

町人たちの姿に気づいた丹下左膳。



④その頃断崖から落ちた丹下左膳は運よく川の淵に谷川から上がった。

「ひどい目にあわされた。伊賀の小僧め……」と一人言。



③「兄上。それでは天下御免の大暴れができますね」

「源三郎頼むぞ」

「兄上、早速江戸に参ります」

左膳に盗み聞きされてしまった故に充分に注意をしろ」



⑧間もなく左膳が街道に上がって来ると源三郎見送りの家来たち。見送りながら話を続けていた。

「よし。あの馬を借りて一足先に江戸登り」と左膳はつぶやいた。



⑦左膳はこの様子を眺めていた。

「よし。今度は仕返しをしてやるぞ」とかゝをにらんだ。



⑥その行列は柳生源三郎の江戸初登り。百万両の宝壺こけ猿の壺を引き取りに江戸の屋敷に急ぎ旅。



⑩源三郎の行列を尻目にして走り行く丹下左膳。

「若様大変です。怪浪人が……」

かゝから降りた源三郎。

「ぐずぐずしてはおられぬぞ。よし。余も馬で行く。早く馬を持って」

「はい」

「丹下左膳とやら。今度こそは」とにらむ柳生源三郎果たして。



⑨たちまち馬に飛び乗る丹下左膳。疾風のごとく走り出した。

「あっ。曲者だ。曲者、待て」

〈懐かしの紙芝居〉

4 丹下左膳 第5巻

作 桃井寅吉
線画 常盤富士

10枚セット

寸法 25.5 × 35 cm

付・筋書と台本

*「懐かしの紙芝居」外装について 本商品は1995年に製作・発行され(大空社)、年数が経過し外装ケースに一部変色等が見られますが内容は良品です。できる限り状態の良いものを出荷しますので、ご了承のほどお願い申し上げます。 販売元・大空社出版

⑤キンちゃんコロちゃん

筋書と台本

*手書きのセリフ
を活字にしました。

(表紙) キンちゃんコロちゃん
がふりまく笑いの数々。
ほのほのとした笑いが心に
滲みる。



④「あっ、いけない。話なんか
しているから落ちてしまった」
「やーい、ほくの勝ちだぞー」
「よーし、それなら」



⑤「こういうのはできるかい」
クルクルクルクル
スイスイスイスイ
「ふーん、うまいことをやるな
あ……」



⑥「けれど、そんなのほくにも
できるよ」
「ふーん。コロちゃんの方がほ
くよりうまいかな。よーし、
それなら」



*実際の絵は
「すべてカラー」です。

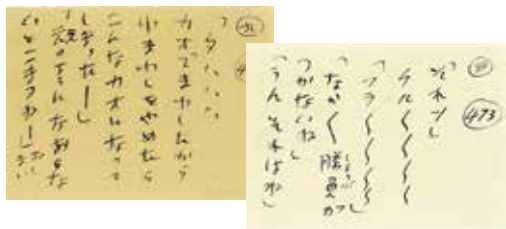
⑦「こーやって頭まわしをや
ってやる」
クルクルクルクル
コロコロコロコロ
「どーだいコロちゃんにはでき
ないだろう」



⑧「そんなのへいちゃらだい」
コロコロコロコロ
クルクルクルクル
「えへん。もっと早くこーやっ
て」



⑨「たはははは。顔でまわし
たから輪まわしをやめたらこ
んな顔になってしまったあ」
「元のように直らないと困るね
え」
おしまい。



〈懐かしの紙芝居〉

⑤キンちゃんコロちゃん

第473巻

9枚セット

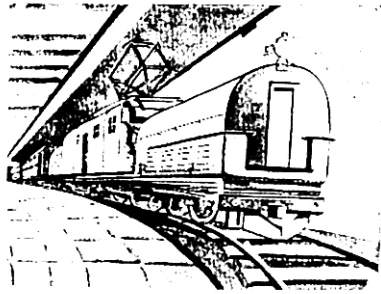
寸法 25.5 × 35 cm

付・筋書と台本

*「懐かしの紙芝居」外装について 本商品は1995年に製作・発行され(大空社)、年数が経過し外装ケースに一部変色等が見られますが内容品は良品です。できる限り状態の良いものを出荷しますので、ご了承のほどお願い申し上げます。 販売元・大空社出版

⑥元祖 黄金バット

実演例文 *口上が残っていないため、参考に実演例文を作りました。



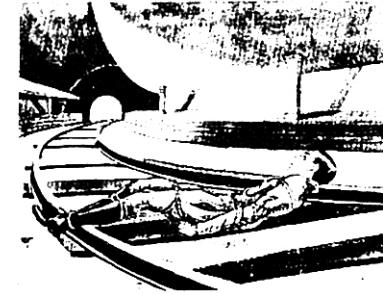
③一方、アルプスの山の中にあるナゾーの基地では、不気味な機関車がエンジンの音を大きくとどろかせながら今にも出発しようとしていた。シュー、シュー……ゴゴゴゴ……と、ナゾーの命令一下、機関車はばく進していく。



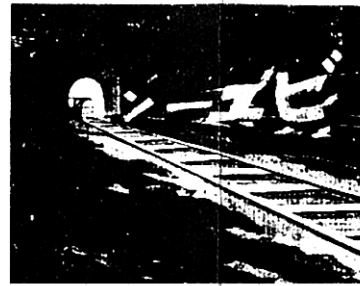
②この海底要塞に捕らわれている篠原博士の娘マサエはナゾーから破壊光線の設計図のありかを教えろとせまられていた。「こら、マサエ、設計図を入れた金庫はどこにあるのだ。教えないとわしの基地に捕らえてあるマサオを殺してしまうぞ」



①静かなる太平洋に突如わき上がる大波、その中から突然現れたのは、悪の科学者ナゾーの海底要塞であります。「ウフフフ……世界中の海も山も征服したナゾー様の恐るべき力を見よ。破壊光線さえ手に入れば世界はわしのものだ。ウフフフ……」ナゾーは不気味に笑うのであった。



④捕らえられたマサオ少年をひき殺すためであります。「残念だなあ。マサエさんを助けようとして基地に入ったのに捕まってしまった。だが黄金バットのおじさんはどこにいるのだろうか」



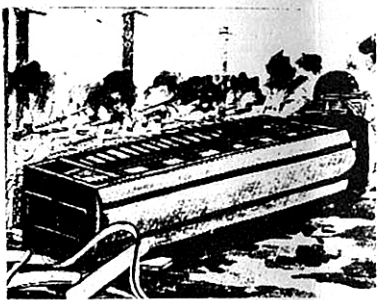
⑤しかし、マサオ少年といっしょに基地に侵入した黄金バットの姿はなく、マサオ少年の目には今にも走ってきそうな機関車が暗いトンネルの向こうに見えるだけであった。



⑥話は変わって、ナゾーの基地では、侵入した黄金バットを見つけたためにナゾーの手下どもの覆面たちが、基地の隅々まで手分けして探していた。「ばあさん、黄金バットは、まだ見つからないか」「きのうから探さじやないか」もう夜が明けるじゃないか」「早く探し出さないとナゾー様に怒られるぞ」「わかった、わかったよ。ともかく家で一休みしてからまた探すよ」とばあさんは家に帰っていった。



⑩かけつけてきた黄金バットは、「おうっ、マサオ君、無事か」「黄金バットのおじさん、助けてくれてありがとう。ほくはもう少してバラバラになってしまおうとこらだつたよ」「ウフフハハハハハハ。この黄金バットがついているかぎり心配はいらない」



⑨ふたりが喜んだのもつかの間、ナゾーの手下が大勢やって来て、横倒しになって列車を盾にふたりをねらってパン、パン……と攻撃してき

〈懐かしの紙芝居・特別編〉

⑥元祖 黄金バット

作・画 永松健夫

(1930・昭和5年、話の日本社制作)

18枚セット

寸法 24.5 × 20.5 cm

付・実演例文



⑪黄金バットは、横たわった機関車を持ち上げ、トンネルの入口をふさいでしまった。驚いたのは機関車に乗っていたナゾーの手下たちであった。皆、腰を抜かして立てなくなってしまう。さて、黄金バットとマサオ少年は無事ナゾーの基地を抜け出すことができるでしょうか。また捕らえられているマサエを助け出すことができるでしょうか。この続きは次回のお楽しみであります。

*「懐かしの紙芝居」外装について 本商品は1995年に製作・発行され(大空社)、年数が経過し外装ケースに一部変色等が見られますが内容品は良品です。できる限り状態の良いものを出荷しますので、ご了承のほどお願い申し上げます。 販売元・大空社出版